

令和2年度 2学期終業式あいさつ

令和2年12月18日

先ほど各種大会で活躍した生徒の皆さんを紹介しました。今回は放送での紹介となりましたが、受賞おめでとうございます。皆さんの日々の努力と栄誉に心より敬意を表します。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため休校となり、その混乱の中での始まりでした。そして2学期は、コロナ対策に加え、猛暑への対策が必要な学期となりました。運動会や芸術鑑賞教室、2年生の修学旅行は残念ながら中止せざるを得ませんでした。しかし、その様な中でもクラス対抗やポート教室、吹奏楽部のウインターコンサートなどの行事が、様々な感染予防対策をしながら実施できました。「できない理由を探すより、どうすればできるかを考えて欲しい」と繰り返し話してきましたが、担当の先生方、生徒諸君の工夫と頑張りには、本当に感謝しています。また2学期は多くの部活動の新人戦も行われ、主催した役員の方々と選手諸君が協力しながら安全に実施できました。大会への出場さえ叶わなかった3年生の悔しい思いの分まで、1・2年生がしっかり頑張ってくれたと思います。本高の伝統は確かに引き継がれていると感じています。

さて、長かった2学期もいよいよ今日で終了となります。土日を挟んで月曜から4日間の冬期講座も組まれています。生徒の皆さんの力を伸ばせるよう、先生方は万全の準備をしてくれています。1・2年生の皆さんは「2年後・1年後」の進路目標実現に向け、意欲をもって臨んでください。また冬休みには自分の自由になる時間が多くできます。長期の休みでなければできないこと、例えば長編作品の読書などにも挑戦してみてください。

多くの3年生はあと一ヶ月後に共通テストが控えています。最後の追い込みの時期です。やればやるほどやり残したことや、まだできていないところが出てくると思います。しかしその不安は全国の受験生に共通するものです。昔の受験生だった私も同じ気持ちでした。全てを完璧にして本番に臨む人はいないはずですが、やるべき事は、本番の時間帯に力が発揮できるよう、生活を整え、その日その日に全力を尽くすこと。理解できたということや、毎日少しずつでも積み上げることです。心すべきは「やってきたことを全て出し切るのみ」と覚悟を決めることです。3年生諸君の健闘に期待します。

最後になりますが、私の好きな言葉の一つに「希望」があります。この希望について、ある有名な医師はこんなことを言っています。「予期せぬ災害に見舞われることが不幸なのではない。その時に希望を見失ってしまうことが不幸なのです」今日のコロナ禍では、社会全体が未来に対して漠然とした不安しか持てない状況を感じます。しかし、人類の長い歴史の中で、良いこと、悪いことが永遠に続くことはなかったはずですが、「希望」さえ見失わなければ必ず道は開けると信じたいと思います。

来年の1月12日の始業式に元気な皆さんと再会することを楽しみにしています。

この冬休み、事故も無く充実した時間となることを願い、終業式の挨拶とします。